

8. 2021 年度 群馬県てんかん地域連携体制整備事業活動報告

独立行政法人国立病院機構渋川医療センター
脳神経外科部長
ニューロモデュレーションセンター 副センター長
高橋 章夫

1. 概要

当院脳神経外科は 2016 年 4 月の開設当初より脳の機能的疾患の外科治療に力を入れてきたが、2021 年度は、てんかんに対して外科的治療、リハビリテーション、生活支援を軸とした包括医療を行うニューロモデュレーションセンターの活動が対外的にも認知され、7 月に県のでんかん治療連携支援拠点病院に選定されたため、病院としててんかん診療に注力していくことになった。群馬県には、発作時ビデオ脳波モニタリングや外科的治療など専門的にてんかん診療を行っている施設がなかったため、これまで多くの患者が県外の医療機関で治療されていたが（図 1）、COVID-19 pandemic により県境を越えた通院が難しくなり、適切な診療を受けられない患者が増加していることが予想された。早急な診療連携体制の構築及び院内のでんかん診療機能の充実が急務であったが、当院は感染症指定病院でもあり、病院機能の大半を新型コロナウイルス対策に割かねばならなかったため、本年度のでんかん診療体制の整備は困難を極めた。

図 1 てんかん患者の他県流出患者数について

◎患者数(群馬県在住の他県への受診)

合計(平均値) 139 名 …年間流出数(a)+(b)+(c)

※小数点以下四捨五入

<内訳>

群馬てんかんセンターへの群馬県からの受診者数・入院者数

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	合計	平均
初診数	8	10	7	11	8	44	9
再診数	0	2	1	0	1	4	1
入院数	24	26	19	23	30	122	24
合計	32	38	27	34	39	170	34

…(a)

西新潟中央病院への群馬県からの受診者数・入院者数

	27年度	28年度	29年度	合計	平均
入院患者数	22	11	5	38	13
外来新患数	21	17	7	45	15
合計	43	28	12	83	28

…(b)

国立精神・神経医療研究センターからの受診者数

	29年度	30年度(3/31)	合計	平均
紹介数	32	48	80	40
患者数	29	46	75	38
合計	61	94	155	78

…(c)

※30年度は4月～9月の半年間のため、上記の数値は実績に2倍を乗じて見込み数としている。

【留意点】当資料の算出にあたっては、入院・外来に同一患者が含まれている可能性があるため、最大患者数を算出。



2. 当院のでんかん診療体制について

てんかん診療は 2 名の脳神経外科常勤医と、3 名の非常勤医（脳神経外科、リハビリテーション科、脳神経内科）により行われ、市内にある群馬県立小児医療センターと連携して移行期医療に力を入れており、標準的なてんかん外科手術も行っている。今年度ではてんかんコーディネーター 3 名（MSW, 言語聴覚士、看護師）を育成、1 名の医事専門職を置き、地域

連携を強化している。検査設備については、開院当初からのモニタリング用多チャンネルデジタル脳波計2台、外来検査用脳波計1台、CT、SPECT、3T MRIに加え、2台目の3TMRIが導入されたため、より詳細、精密な神経画像の撮像が可能となった。対外的には、コロナ禍で中断を余儀なくされていた医療従事者向けのオープンカンファレンスを今年度は月1回WEB開催で再開、県内の多くのでんかんに関わる医療従事者が参加している。

3. 群馬県てんかん治療連携協議会

群馬県障害政策課、群馬大学医学部のてんかんに関わる診療科長と協議を重ね、協議会の構成員（図2）を決定、2022年3月に第1回の連携協議会をWEB開催する予定である。

図2 群馬県てんかん地域診療連携協議会				
職種	氏名	所属	役職	診療科
医師	福田 正人	群馬大学大学院医学系研究科	教授	精神科
	滝沢 琢己	群馬大学大学院医学系研究科	教授	小児科
	池田 佳生	群馬大学大学院医学系研究科	教授	脳神経内科
	好本 裕平	群馬大学大学院医学系研究科	教授	脳神経外科
	赤田 卓志朗	群馬県立精神医療センター	院長	精神科
	椎原 隆	群馬県立小児医療センター	部長	小児科
拠点病院	高橋 章夫	国立病院機構渋川医療センター	部長	脳神経外科
患者団体	清水 信三	群馬県てんかん協会(波の会)	代表	
	竹内 亜矢美	群馬県てんかん協会(波の会)	当事者代表	
県職	齊藤 猛	県健康福祉部障害政策課	精神保健室長	
保健所	屋間 詩織	渋川保健福祉事務所	医長	
群馬県こころの健康センター	佐藤 浩司	心の健康センター	所長	